会　　議　　録

会議の名称	第4回　矢島地域協議会
開催日時	平成19年12月17日（月）午後6時00分
開催場所	日新館市民ホール
出席者氏名	「出席者名簿」のとおり
欠席者氏名	佐藤永吉、三浦良明、小番　功、相庭直一、佐藤伸一、相庭幸子、佐藤健美 三浦秀人、近藤正満　　9名

会議次第

1. 開　会
2. 会長あいさつ
3. 支所長あいさつ
4. 協　議（分科会協議）
   第1分科会
   「中高連携校に期待するもの」～矢島の教育を考える～
   第2分科会
   「由利高原鉄道とバス路線の確保について」～公共交通について～
5. その他
6. 閉　会

会議の経過	別紙のとおり

◆出席者名簿

（25名）

委員　19名）	沼　倉　睦　子	
会　長　　鈴　木　　清	東海林　　晃	事務　2名）
副会長　　武　内　詔　子	東海林　久美子	振興課　滝野由紀夫
秋　山　哲　朗		振興課　佐々木有希子
佐　藤　政　一		
茂　木　好　文	総合支所　4名）	
土　田　龍　太　郎	支所長　　村上典夫	
赤　川　祐　一	振興課長　土田隆男	
佐　藤　久　美	教育事務所長　熊谷　勲	
小　沼　文　夫	教育課長　三浦幹夫	
三　浦　　省		
佐　藤　寿美子		
打　矢　正　敏		
八　坂　美　智　子		
小　番　け　い　子		
佐　藤　嘉　孝		
佐　藤　孝　義		

平成 19 年度　第 4 回地域協議会

●鈴木会長

師走の半ばを過ぎ、多忙のところお集まりいただきありがとうございます。

前回の第 3 回は、委員の出席が少なく、支所からの説明などもあり、予定してあった分科会での協議も時間をあまりとれずできなかった。今回は、３０分繰り上げて開催でありますが、協議会の成立には、委員過半数の出席が必要となっており、今後も都合をつけて出席をお願いしたい。

今日の内容については、前回も話をしていますが、地域を元気にする方策ということで協議しておりましたが、あまりにも漠然としているという話もありましたので、今日は、第１、第２分科会に分かれて、ひとつには、中高連携校と地域の関わりについて、どのようにして中高連携校を盛り立て活性化につなげていくべきか協議してもらいたい。また、もうひとつには、鳥海地域ではバス路線が廃止されたり、由利高原鉄道の運営も大変となってきている。万が一公共交通機関がなくなったりすればこの地域も寂れていくことになるので、公共交通機関の存廃について考えていただきたい。

このあと分科会に分かれて、協議していただきたい。

●村上支所長

１２月のあわただしい中皆様にお集まりいただき有難うございます。

会議に入る前に２，３点、この地域の出来事について報告させていただきます。

第１点目は、除雪関係であります。この地域には、国道、県道、市道の３つがありますが、国道、県道については、矢島建設で委託を受けている。直営で行う市道については、現在１９３路線があり、距離数は１１８キロあります。先般、除雪会議及び安全祈願祭を終えております。今年は、ロータリーを１台更新して、冬の交通の確保として万全の体制で対応していきたいと考えております。雪の降るのも早く、今年も１２，３日出動している。これから本格的な降雪期を迎えることになりますが、交通確保のほかにも除雪というよりも雪対策ということになりますが、農業、消防、福祉また、場合によっては山の遭難というようなこともあるので、総合的な立場で雪対策に取り組んでまいります。

第２点目は、国道の改良工事であります。矢島に入ってくる玄関口として、前杉地区と道仏坂地区がありますが、前から道路事情が悪く、「峡わいだ」、「狭い」と言われてきており、改良工事をお願いしてきておりましたが、前杉地区については、先般皆様にご報告しておりますが、当初計画のトンネルルートから対岸のバイパスルートに変わると説明しておりますが、一方の道仏坂の方は、以前県では、前杉が完成後でないと着手できないといっておりましたが、強く要望したこともあり、同時に着工するということになりました。

道仏坂については、国の事業認定、採択がすでになされておりますが、現在鳥海方面か

らは、瀬中石まで道路改良が行われておりますが、そこから道仏坂まで１，０６０ｍあります。その区間を平成２３年度までに完成したいということになっております。総工費は約８億となっております。路線への測量も行われており、先月８日に関係者への事業説明を行われております。事業については、路線測量が終了し、このあと用地測量に入るわけですが、用地説明を行い了解が得られれば、平成２０年度に用地を買収したいということであります。前後しますが、路線については、現道の拡幅により実施する予定となっております。瀬中石までは、子吉川側を拡幅して整備しておりますがそこからは現道の山側の斜面を削って道仏坂まで拡幅を行う計画となっている。平成 20 年度に用地を買収して平成 21 年、22 年、一部 23 年度に入って、３ヶ年で事業を実施し、平成 23 年 12 月には供用開始をしたいという現時点での計画になっております。

第 3 点目は、中高連携校の建設でありますが、現在、工程どおり順調に進んでおります。周辺からみても状況がわかりませんが、基礎工事を進めており、コンクリート打設等を行っています。12 月一杯で積雪寒冷のため一端中断することになっている。1 月、2 月は工事の休止期間となっている。春の 3 月から工事を再開する予定となっている。

今日の議題ですが、会長からお話しのあったとおり地域の課題について協議いただくということで先般開催された幹事会で協議し、一つには、現在進めている中高連携校建設もあり、将来の教育問題についてお話ししていただきたい。もう一つは、地域の足と言われている由利高原鉄道と生活バス路線などの公共交通機関の確保についてお話ししていただきたい。地域の大きな課題なので審議の程よろしくお願いします。

●鈴木会長

それでは、協議に入りたいと思います。

分科会のメンバーの割り振りは特にやっておらず、出席された方々を半分に分けて行いたいと思います。

・第１分科会（「中高連携校に期待するもの」～矢島の教育を考える）

武内詔子副会長　茂木好文委員　佐藤政一委員　土田龍太郎委員　赤川祐一委員
小沼文夫委員　八坂美智子委員　沼倉睦子委員　東海林久美子委員

・第２分科会（「由利高原鉄道とバス路線の確保について」～公共交通について）

鈴木　清会長　秋山哲朗委員　佐藤久美委員　三浦　省委員　佐藤寿美子委員
打矢正敏委員　佐藤嘉孝委員　佐藤孝義委員　小番けい子委員　東海林　晃委員

資料説明（別紙資料）
中高連携校や教育に関する資料
●三浦教育課長
・由利本荘市の教育の基本理念等について
・児童数の推移について
・中高連携校の建設について

公共交通に関する資料
●振興課　滝野
・鳥海山ろく線の利用人員の推移
・由利高原鉄道再生計画について（Ｈ１７～Ｈ２３）
・鳥海山ろく線運営促進連絡協議会・矢島地域協力会等の支援活動について
・バス運行に関する欠損額と補助金について

■第１分科会
座長～Ａ委員
　今回のテーマについては、これまで協議会では市に対して要望等を出すだけであったが、要望を出すだけでなく地域を元気することを考えていかなければいけないのでないか。特に現在進んでいる中高連携校については少子化が進む中特色をもった学校として地域で考えていければということでテーマしている。
　中高連携校に関することや今後の教育に関することなど日頃から考えていることについて委員皆様から発言をお願いします。

●委員からの発言要旨

・今後出生を増やすことで児童を増やすことはできるが、現在の小学校の児童数を増やすことはできない。児童生徒数は決まっている。このような児童生徒が少ない中で中高連携校が建設された際に、いかにして中高の連携をうまく行っていくかが重要でないか。また、住民が中高連携校との関わりをどのようにしていくか考えなければいけないのでないか。

・現在の高校には、他地域からたくさん来ている。公共交通機関は絶対欠かせない。中高連携校を考えるとき、切り離さないで考えていかなければならない。

・次の世代の子供たちを持っている家庭が数多くある。

・矢島中学校の生徒は、あまり矢島高校に行きたがらないと思う。何故かと考えると現

在の矢島高校レベルが低いからでないかと考える。矢島高校に入れば、お金もかからないし、朝もゆっくり寝ることができる。しかし矢島高校から進学することが大変なようだ。学校のレベルを上げることで地元中学校からも多くの生徒が地元高校に入れるようになればいいと思う。

・普通は、生徒を募集すれば自然と生徒が集まってくるのだが、過疎化が進んだ地域の学校だと少なくなっている。生徒がレベル高い中央の学校へ集まってきている。

・せっかくこの地域に高校があるのだから、矢島高校に入ってレベルを高めてもらいたい。現在の生徒の中にも、国公立の大学を目指せる成績の生徒もいる。昔は、悪い生徒もいたが、現在、生徒は落ち着いているしがんばっている。そのがんばっている生徒がいることを地域のみんなが知るべきである。実態を知ることで矢島高校に入れてもらいたい。

・学校の教科書は、生徒の学習レベルによって違う。レベルのあった教科書を使用しないと頭にはいらない。そのようなこともあり上を目指す子どもたちは、学校を選択すると思う。

・昔、矢島の農家の長男は、ほとんど矢島高校に入学したものだ。普通科より農業科の生徒の方が優秀だった。その卒業生が町議会議員になったり、または他方で活躍している。その方々は家業の農業を継ぐために入っているので学業もしっかりやっていた。矢島高校の今が悪いとは思わないが、これから中高連携校になった時の状況が重要と思う。連携校になってから中学校の子どもたちがそのまま矢島高校に残りたいと考えるようになればいいと思う。これが、中学校よりも勉強しないようであれば、離れる子どもが増えてくると思う。

・中高連携校になって、風紀が乱れれば大変だなと考えている。

・今は、「開かれた学校」ということで、学校評議員など外部の人が学校に入ってきている。中高連携校が開校したら地域の人間がそこに入っていって「地域の開かれた学校」として、地域で応援する体制をとれるようにすればいいと思う。
　地域の人が顔出して、「また来ている」といわれるぐらいに関わっていけば、みんなから守られている、応援されているという意識が根付き環境が良くなってくるのでないか。

・地域には、茶道や華道など免状を持っている方がいるので、地域との関わりを深めるために、例えば部活に入らず、授業が終わるとすぐ帰る生徒などを対象に教えるということもいいのでないか。また、高校には、優秀な先生から赴任してもらい、中学校への授業で教えていただくことで学力の向上も図れるし、この先生のいる高校に行きたいという意識も出てくるのでないか。

・部活動で何かひとつ支援を行うということも良いと思う。例えば、野球などのスポーツのレベルを上げることで、入学する子どもを増やすという方法もあると思う。学力も大切だが、その方が早いと思う。

・矢島高校では、現在も野球を強くしたいということでかなり力を入れており、バスを購入して練習試合等を行っている。
野球では、最近、高校の野球ＯＢ会も立ち上げている。冬も新町にある育苗の施設を借りながら練習を行っている。

・高校の現在の状況が、そこに関わっている人には伝わっているがそれ以外に人に伝わっていないと思う。いい情報を流すということが必要と思う。

・「日新」という広報もあるが、一部の情報でみてもよくわからない。もっと身近な情報も発信してもらいたい。地域協議会でももっと関わりを深くしていければいいと思う。

・昔は、高校に入る際に制服がいいとかそんなことで選んでいた時期もあった。本荘の高校に入ってもその後の進路によって矢島高校に入っても大丈夫な場合もある。矢島高校に入れば、親の負担も軽くなる。本荘に行って切磋琢磨するのはいいが、悪いこともすぐ覚える。

・中高連携校になって、中学生のいいところに高校生が感化されればいいが、また、高校生にいいところに中学生が感化されれば非常にいいが、悪い方に行きやすいので心配である。

・高校では、部活に入っていない生徒が、ボランティアを行っている。もし、中学校でも部活に入っていない生徒がいた場合、中高が一緒になりボランティアを行うというのもいいのでないか。

・高校の先生が中学校でも専門教科を教えることもあるので、高校の先生のレベルアップは絶対に必要と思う。それでないと矢島高校の発展はないと思う。中学校時代に高校の先生を見ているので、高校の先生には、失望されないように徹底的にがんばってもらいたい。

・生徒だけの連携ではなく、保護者の連携も必要である。中学校にＰＴＡ等で行ったら高校も覗いてくるとか、逆に高校に行ったら中学校も覗いてくるといったような交流があれば良くなっていくのでないか。

・今の高校生たちも、「おはよう」と声をかけると「おはよう」と返してくれる。知らない生徒にも声をかけても返してくれるので、みんながそういう風に気軽に声をかけていくことで声をかけられた生徒は、自分を見ていてくれるという意識をもつようになるのでないか。今は、生徒の方から「おはようございます」と声をかけるようになっ

ている。

・部活をやっている子たちも元気よく声をかけてくる。10 年前からみると生徒たちの生活態度は良くなっている。前の矢島高校とは違うということを住民にアピールしていくことも必要でないか。

・手をつないで歩いている子がいると、矢島では狭いのですぐ話しが大きくなってしまう。地域の人も暖かい気持ちで見守ることも必要でないか。また、矢島中、矢島高をこれから守っていかなければいけないということを親にも話しをしていかなければいけないのでないかと思う。

・地元だから目につくだけであり、本荘でも同じようなことがあるけれど見えないだけだと思う。由利６校で集まる会合でも話題にでるが、どこでも同じようなことがあると聞いている。

・「やまばと会」だとか「中高連携校を育てる会」だとか中高連携校を応援するような会を作って、形をみえるようにして、広めていくことが必要と思う。

・具体的に汗を流して、行動を起こすための方法として名前は別として中高連携校応援部隊的な立ち上げができれば、中学校にも高校にも地域にもいいことだと思う。
　料理や花でも地域でバックアップできるグループがあるということはすごいことだと思う。

・連携校ができれば、校舎も新しくなるし、文化祭等のイベントがあった時に地域住民が見にいくことで生徒の活動の姿も確認できるし、生徒のがんばりにつながっていくと思う。

・これまでの文化祭では、業者の方がうどん等を販売していたが、今年は保護者も参加して販売等に手伝っており、生徒、先生、保護者と一致協力して行っており、非常に活気があったと思う。

・少子化が進行しているのは明確であり、結婚しないと子どもを生まれない。地域にもたくさんの独身者がいる。前は結婚相談所があったが消滅してしまった。このままでは、限界集落になってしまうおそれがある。その対策もとらないと大変になる。結婚に結びつける調整を行い、１組でも２組でも結びつけることができればいいのだが。

・行政で行った結婚相談所は失敗に終わってしまった。民間で中国からお嫁さんをつれてきた関係は、ある程度うまくいったと思う。日本だろうが海外だろうがうまくいく、いかないというのは 2 人と家庭に左右されると思う。

・現在矢島地域に点在する空家を利用して、そこに他地域や市外から来てもらって住ん

で地域の人を増やすということができないものか。高齢者でなく若い人から住んでもらえれば、子どもの数も増えてくる。

・地域に若い女性がいない。みんな若い人が外にでていっている。

・ＴＤＫが工業団地にできれば、矢島も通勤圏内になるのでないか。

・正社員はあまり採用しないのでないか。大体が派遣社員でないか。派遣社員はいつまでそこに居られるかわからないから、永住したりしないのでないか。

・まずは、「矢島はいいところだ」と口に出していいながら、まちづくりを行い住んでもらえるようにした方がいい。矢島は、水がいいし、山、川があり、海にも近い。意識を変えていかなければ良くならない。

・おばこ号を利用して、孫さんをつれて矢島地域に遊びにきている人がいるが、矢島には良いところがたくさんあるというようなことを作り、アピールしながら人が増えるようにしていけばいいと思う。

・昔は、矢島高校に入って農業を継げばよかったが、今は田を放している人がたくさんいるので農業を継ぐということで矢島高校に入る人はいない。田を耕さなければ、家を継ぐこともない。益々過疎化が進行すると思う。

・現在は農業をやって生活しているが、農業をやって生活ができなくなれば矢島にいる必要はなくなる。農業がだめになれば加速度的に過疎化が進むことになる。

・今はまだ、高齢者世帯でも生活をしているが、年々、亡くなる人が増え、空家も増えてくると思う。

■第２分科会

座長～Ｂ委員

「由利高原鉄道とバス路線の確保について」協議していきます。

問題提起とか意見等がありましたらお願いします。

●委員からの発言要旨

・万が一、由利高原鉄道がなくなると、バス料金が倍以上に上がる。現在本荘までの料金は５５０円。本荘～東由利間は、千円以上するとのこと。現在の中学校 3 年生は４０人ぐらいしかいない。もし本荘地域の高校に４０人全員行っても４０人しか利用者がいないことになる。

・絶対なくされないということで、利用する機会があって２回ほど利用したが、なかなか長続きするようなものでもない。住民の乗車運動等もやったりしているがなかなか利用される状況まで到達していない。何かいい方法があればなと思っている。

・川辺からも小学生はよく利用するが中学生は、あまり利用していない。親が車で送り迎えしているのがみうけられる。補助はどこまで出ているのか。　通学補助は小学校３年生まで。

・下校時間帯におばこ号に乗ったが、矢島～川辺、由利地域では、前郷～鮎川まで子供たちが利用していた。

・再生計画の中で平成２８年度まで県の負担を求めないとなっているが、県ではそれ以降半額の負担をしないということなのか。もし計画どおりにいかない場合、県で負担しないようになれば大変だ。

・計画に沿って努力しなければならない。

・もし計画どおりに進まなければどうなるのか。

・内陸線は、廃止するかバス転換するかという協議も行われている。

・約８，０００万円の赤字となっていているが、赤字の内訳はどうなっているのか。

・一番有効性があるのは、市職員が通勤に使えばいいのでないか。

・市役所職員は、鳥海、矢島、由利地域で６０人ぐらいいる。由利高原鉄道の職員は、２２人いる。

・旧矢島町時代も矢島線を存続させるために用もないのに汽車に乗ったことがある。しかし単発的な利用は限界があると思う。強制的に乗ることでも運営でない、数量が増

えなければ単価を上げるといことも考える必要がある。

・収益がどの時間帯にあるのか見て、収益がない赤字になっている時間帯はなくすということも検討すればどうか。昔は、夜遅い汽車があれば利用するのでないかと思っていたが、経費１０万円かけて売り上げ８万円では話しにならない。経営のあり方も考え直すべき。利用する側は、朝４：００～夜１１：００まで動いてくれればいいが、実際は乗らないのだから考えなければならない。

・安全性は、バスよりもあるのでないか。

・通勤している人に汽車を利用しろというのは理屈ではわかるが、現在、車で通勤している人の車がなくなればかなり不便になる。家～駅、駅～職場へとその部分を考えると理屈ではわかっていてもなかなか切替できないのでないか。

・バスの運賃は、鉄道の運賃を基準に決められていると聞く。鳥海地域に行くバス運賃は高い。

・赤字であれば汽車賃を上げるのも仕方ないのでないか。公共の足は代金が上がろうと利用せざるを得ないだろう。

・学生の定期が割高では？　安くすれば下宿が減って利用が増えるのでは。

・家から駅の間について駐車場を確保すれば、解決できるのでないか。本荘駅からは自転車を利用したりできる。市職員については、現在組合病院跡地に車を駐車しているが、複合施設が建設されれば、市職員は駐車できなくなり、自分で駐車場を確保しなければならないとのことです。

・目的地にいくのに本荘駅でおりて、またバスに乗っていくというのも面倒なことである。

・レールバスみたいなものが開発されているが、普通の車両より経費がかからないのでないか。

・現在のバスは、利用者のわりに大きすぎる。もっと小さい車体のほうが経費がかからないのでないか。７，８人のワゴンでも十分かと。行政で買って羽後交通に貸してもいいのでないか。

・昔に比べると利用する絶対数が確実に減少している。鉄道を利用する目的もなくなってきている。月１回でも本荘地域や矢島地域で農産物を販売するイベントを開催したらどうか。利用するための具体策がない。

・鳥海山登山をするのに、観光課で予約を取ってバスを出して、鉄道を利用してもらう

方策をとればどうか。具体的な乗車する環境を作っていかなければ難しい。
昔は老人クラブ等でも汽車を使っていたが、今は無料送迎バス等があるため、汽車を使う人がいなくなった。

・高原鉄道主催のイベントやっているならもっと鉄道自ら進んでやるんだという積極性がほしいし、特産品まつりとか無料にしている場合ではないと思う。

・再生計画では、鉄道でもがんばるし、行政でもがんばるので地域住民からもがんばっていくから国の助成を受けられるということになっている。

・利用促進につなげるには、声かけをするぐらいしかないのでないか。前の話しでもでたが、乗車率を調べて、高いところは残し、低いところは省き効率的な運営をすればいいのでないか。バス路線についても、いくら残してほしいといってもなかなか難しいと思うが高齢化社会なので絶対必要というときに運行できるようにしてもらえればいいと思う。

・他地域からは、保育園の子供たちが矢島に来ているが、矢島からおばこ号で行っても本荘の駅前近くには、子供たちが遊べる場所がないので、黒沢駅あたりで降りて公園で遊ぶことが多い。